

令和6年度 学校評価の集計結果

アンケートアプリケーション『Forms』を活用した学校評価が3年目を迎えました。昨年度も多くの皆様(79%)に御回答いただきましたが、今年度はそれを上回る686件(91%)もの保護者の皆様に御協力をいただくことができました(記録上過去最高の回答率)。本校は今年度より教育課程の大幅な改定を実施しており、たくさんの御意見を頂戴できることは改善を図る上で大変有益です。御協力をいただいた皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

結果の概要といたしましては、全21項目に占める肯定的な評価(「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%を超えるもの)をいただいた項目数は11項目で、昨年度より6項目減った厳しい評価となりました。保護者の見方(評価)を知ることは本校がねらいとする教育活動の達成度を知る上で欠かせません。脈々と受け継がれている四中魂の“燃える心”、“奉仕する心”、“感謝する心”を時代に合わせて進化させるために不易と流行について適切に捉え直してまいります。

【肯定割合が80%未満の項目】

①「自ら学習に取り組み、学力を伸ばす努力をしている」	60% (昨年度71%)
③「自らの健康増進と体力の向上を図る努力をしている」	66% (昨年度76%)
⑤「勤労をいとわず進んで奉仕することができる」	65% (昨年度76%)
⑧「将来の進路や職業について計画的に指導をしている」	69% (昨年度77%)
⑯「学校は事故防止等安全な環境作りに努めている」	78% (昨年度89%)

<次年度に向けた改善の方向性について(抜粋)>

(1)主体的に学びに向かう姿勢の向上、確かな学力の定着

今年度は、学習意欲を引き出し、主体的に学習に取り組む姿勢を育むために、達成感が得られる基礎テストを実施し、加えて、テスト前の諸活動停止期間を6日間に延長することで課題に向き合う時間を確保しました。次年度は基礎テストと定期テストの関連を強めることや学習の仕方を示すことをしてまいります。

(2)進路や職業についての計画的な指導

将来における社会的自立のために、自己(の適性)を知り、職業について調べ、働くことの意義について考えを深める探究学習を「総合的な学習の時間」に設定し、希望制による職場体験学習の実施を検討します。また、進学(入試)指導についても、1・2年生から計画的に実施してまいります。

(3)いじめや不登校の未然防止

単年度の学級編成を実施するなど、人間関係づくりの機会を通じて、多様な人と協働していく力を養います。また、生徒の悩みや課題に対し、複数の職員で早期に組織的な対応を図ることや家庭との連携を大事にしております。今年度に引き続き、校内支援教室＝ステップアップルーム(SUR)における指導体制を充実させてまいります。

(4)勤労をいとわず進んで奉仕する心の育成

保護者、教職員共に低い評価となりました。通常清掃と重点清掃のやり方について違いを明確に提示することや、曜日や間隔を固定することで意識的な習慣化を図ります。また、委員会や係活動で清掃の時間帯にこだわらない清掃活動を企画し、奉仕の心を養う工夫を検討します。

(5)開かれた学校づくり(学校・家庭・地域との連携)

地域の力を活用することはサステナブルな教育活動に欠かせません。積極的に地域人材を活用し、英検や漢検を実施しました。次年度は地元の企業による希望制の職場体験や部活動への地域人材(専門家)の活用を推進します。また、PTA活動の在り方について引き続き見直しを図ります。